

# サルモネラ食中毒の最近の状況



我が国では、平成元年からサルモネラによる食中毒が多く発生するようになりました。その大きな要因として、サルモネラの血清型のひとつであるサルモネラ・エンテリティディス（以下 SE と略す）が鶏に広く蔓延し、それにより卵が SE に汚染されたことが挙げられます。卵は消費量が多く、いろいろな食品に調理されるので、食中毒をおこす危険性も高くなります。この菌は加熱により死にますが、不十分な場合には食中毒も起こります。いままで判明した原因食品として、洋菓子、オムレツ、マヨネーズ、卵納豆、だし巻き卵、卵入りどんぶりなどがあります。

サルモネラ食中毒は平成元年以降、事件数、患者数とも常に食中毒の上位を占めていましたが、平成 12 年頃から減少傾向がみられるようになりました。

## サルモネラ食中毒の発生状況

図 1 に全国と山梨県のサルモネラ食中毒発生状況を患者数で示しました。全国で見ると平成 8 年に 16,576 人、そして 11 年まで 10,000 人以上であった患者数は、12 年に 7,000 人以下となり、以後 5,000 人前後に減少しました。県内でも平成 8 年に 657 人であった患者数が、9 年からは 100 人以下となり、14 年はサルモネラ食中毒患者の発生はみられませんでした。平成 15 年の全国の状況はまだわかりませんが、県内では 11 月 14 日までのところ、サルモネラ食中毒は発生していません。

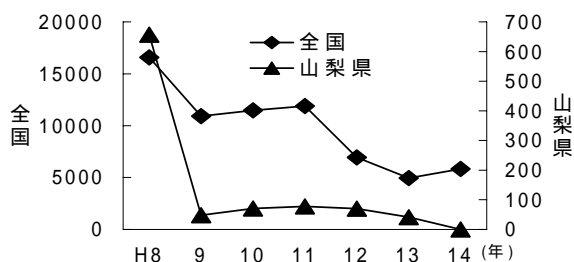


図 1 サルモネラ食中毒発生状況 (患者数)

## サルモネラ散発下痢症の発生状況

当所では食中毒防止対策の一環として、県内医療機関等の散発下痢症患者由来のサルモネラについて検討してきました。これによると、図 2 のように平成 8 年に 305 人であった患者数が、13 年には 127 人、14 年には 46 人と急激に減少しました。この減少をサルモネラの血清型で見ると、平成元年から流行し始め、8~12 年には分離菌の約 8 割をも占めていた SE が 13 年以降顕著に減少していることがわかります。平成 15 年も 10 月までに 47 人の患者が発生しましたが、うち SE は 17 人です。

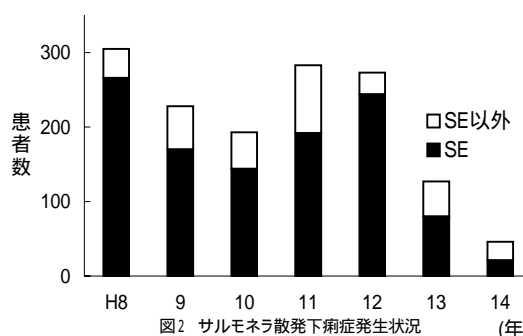


図 2 サルモネラ散発下痢症発生状況 (年)

## サルモネラ食中毒はなぜ減少したのか？

卵によるサルモネラ食中毒の発生防止のため、厚生省（当時）は食品衛生法施行規則等を改正し、鶏の卵の表示基準、液卵の規格基準等を定め、平成 11 年 11 月から施行しました。これにより、殻付き卵に消費期限や 10 以下の保存などが表示されるようになりました。また、生産サイドでも鶏に SE 不活化ワクチンを使用し始めました。このように、卵のサルモネラ、とくに SE に対する総合的な対策が徐々に効果を発揮してきていると考えられます。しかし、サルモネラによる食中毒、散発下痢症は卵以外の原因でも発生するので、当所では今後とも、その発生状況や血清型の動向に注意を払っていきたいと思います。

（微生物部）